

よっ葉だより

2024年
8月5日号
No.801

～地産地消～
いのちと健康くらしを守る
よっ葉生活協同組合

やさと農業体験② 野菜の収穫をしよう! 開催しました!



7月20日(土)に茨城県石岡市にある朝日里山学校で、よっ葉生協主催の農業体験を開催しました。今回は、15家族、総勢50名の組合員とその友人の皆様にご参加いただきました。作業中の最高気温は37度!とても暑い中でしたが、みな元気に無事開催できました。今年のかぼちゃが豊作で、子どもたちもとても楽しそうに大きなかぼちゃを抱えながら収穫体験していました。メークイン品種のじゃがいも掘りは、まるで宝探しのように、みんなじゃがいもを探しながら土を掘り起こして、汗もいっぱいでしたが、笑顔あふれる収穫体験ができました。残念ながらトウモロコシと枝豆はタイミングが合わず、気候や環境条件に大きく左右される農業の大変さも体験することができました。

朝日里山学校には石窯があるので、昼食にはピザ作り体験。よっ葉生協の食材と収穫した野菜を使ったトッピングも楽しく、焼き立てピザをみんなでいただきました。とても美味しく、全員完食!ごちそうさまでした!!

今回は生産者の越智さんと青木さん、JAやさとの有機部会の職員にもご参加いただき、にぎやかな体験&交流会となりました。



カエルも

とても元気でした!



大きいのとれたよ♡



収穫中のようす♪



手作りピザづくり♪



★開催施設紹介★

朝日里山学校(茨城県石岡市柴内630)昭和30年築の廃校になった旧朝日小学校を活用し、現在は体験型の観光施設になっています。昭和の風景が残る建物です。

♪やさしい収穫体験の一日♪



9:45	受付
10:00	説明～収穫開始!
11:30	やさと農家さんと一緒にピザ作り開始～昼食&交流会
12:30	昼食後の片付け
13:00	収穫野菜のお土産を受け取って、解散

理事長 横山

夏の農産物の現状

—野菜は暑いのが苦手、虫は暑いのが好き—

今年の夏も40℃近い猛暑が続いています。人もさすがこの温度で外だけにいることは厳しい。夜間の温度差も数度だけになっています。米、野菜、果実、ずっと1日中立ったままです。昨年この昼、夜の温度差が少なかったことが米の乳白米を多く出しました。夜温度が下がらないとでんぷん質をうまく作れないため、見た目が白いので一等米にならなかったのです。

すべての農産物に暑さの影響が出て、今農家を苦しめているのが異常発生しているカメムシです。



—カメムシが今年多いわけは？—

温暖化で越冬しやすい環境や餌が多かったということで、絶対数が増えました。

果樹カメムシで愛媛県が14年振りに警報を出しています。

(7月23日日本農業新聞) この警報は重要病害虫の大発生が予測され、早急に防除が必要な時に出されます。キウイフルーツ、柿、柑橘が対象です。注意報は関東にも出され、梨がすでに被害を受けています。変形、変色で商品価値を失います。

稲は、イネカメムシ、斑点米カメムシ、ウンカの防除通知が農水省より出されています。米につくカメムシに柔らかい内に吸われると、斑点だけでなく実にならなくなります。

—ここでネオニコ系農薬が使われます—

防除に使われている農薬はネオニコ系農薬が多く使われます。果樹、野菜、稲に必要なのは水溶性で浸透性が高いことが大事です。

稲は今年は、高効果をもたらすために出穂期に籾が未熟な内に不稔を引き起こす時期に1回、斑点米を防ぐために、その後もう1回散布することを勧めています。使用される農薬はシノテフラン水溶剤です。すでに無人ヘリによる散布が行われています。

—よつ葉の農家は苦戦しています—

有機農業を進めている農家が多いよつ葉生協の現状は、特に厳しさが増えています。稲、果物にカメムシ被害が多かったのが、今年は果菜類に多く出ています。先日、やさとの農業体験が行われ有機農家さんも応援にかけつけ、組合員さんと一緒に収穫作業をしてくれました。「カメムシが多くて大変」と話していました。ナス、キュウリ、トマト、枝豆、ズッキーニ、地上に成っているものが対象です。

有機栽培は化学合成農薬を使えないのは勿論ですが、特別栽培農産物でもよつ葉生協ではネオニコチノイド系農薬の不使用を進めていますので、農水省が進めている慣行栽培基準が全て当てはまらないので、減収量にならざるを得ません。

高温は成長にも影響します。キュウリなども夏の野菜の代表ですが30℃を超えると花芽のつきが悪くなります。軟腐病や高温による葉が焼けたり枯れたりします。

—食べてくれる人が待っているから頑張れる—

産直生協として、生産者の顔が見え、消費者に分かることがお互いの支えになり力になっています。出来た分を市場に持っていき、スーパーなどの店頭と並んで今は生産者、農家の顔写真を張ったりして様子が分かります。ここで分からないことがあります。有機認証マークがついていれば合成化学農薬不使用と確認できますが、それ以外はほぼどのように育てているか分かりません。

産直はお互いの顔が分かるだけでなく、育て方が分かります。農家は、「育て方を理解してくれる組合員さんがいるから、農薬を使わないで頑張れる」と言います。

JA やさと有機部会へ新規就農をされた方は、農薬使用から不使用に切り替えたわけではなく、最初から有機農業を目指しているので、有機農業が普通の農業だと思っています。カメムシ退治を農薬を使わないでやることも、経験の中で比較するものがないので当たり前な事です。農業をする中で農薬を使って殺虫する選択肢がないのです。大変さも当たり前には私たち消費者が止めなければいけないでしょう。

農薬不使用で手間をかけて頑張っている農家を評価し、農薬不使用を共有できるのは私たち組合員です。農業体験に参加した組合員さんは農家さんの顔が「くらら」に出ていなくても、作っている野菜から分かると言います。注文しないではいけないと言います。

—登録制度に参加を—

昨年の米の不作から米不足が言われて、スーパーの売り場から姿が消え、高くなっています。よつ葉生協の農家も例外ではありません。

昨年、よつ葉生協の農家も地域、場所によっては不作でした。周りの小売店の価格が高くなって、途中で価格を上げることは原則ないので、よつ葉生協への注文が多くなります。それは野菜なども同じです。春先、キャベツが通常の倍近くに値上がった時期があり、よつ葉への注文が増え、欠品になったり次週対応になりました。異常気象、気温の変化による発育不良はすべての農家にかかってくる問題です。

よつ葉生協に納入している量は前年の実績で作付け計画を立てます。異常時による注文増には、加工品と違い対応できません。解決する方法は、是非、米、野菜、加工品、牛乳、卵など登録品をご利用いただけたらと思います。毎週納入する数量の安定は農家、生産者にとって、作付、飼育計画に入れることができます。

—異常な暑さは全ての食べものが被害を受けています—

北海道の夏は涼しいとはかなり前の話です。体の大きい乳牛は寒さに負けないが暑さにはとても弱いのです。毎年気温が上がり、飼育環境への設備投資など、搾乳量が減る中で、酪農家も乳牛も大変さが増えています。鶏も同じです。暑い夏は水を飲む量が増え、餌を食べる量が減ります。農作物も暑さが続くと元気がなくなり、枯れたり、病気にもなりやすくなります。

—生産者は消費者の命を守り、消費者は生産者の生活を守る—

韓国の生協がいつも言っている事です。

今この連携がとても大事になっています。

よつ葉生協の農家、生産者は、多少の自然環境の悪化には対策をいろいろ考えて、毎週欠品のないように頑張っています。



この異常な暑さ、水不足は農家、生産者の頑張りだけでは解決しないことも多くなっています。欠品の場合、余程のこととご理解をお願いします。大豆が不足で、特に有機栽培大豆が不足しています。豆腐作りにも影響が出ています。8月に入ると秋冬野菜の準備に入りますが、種まきの時に雨が降ってくれるよう願うばかりです。すべての生き物と、この環境を共有して乗り越えましょう。(顧問 富居)



参加してみませんか

<お問合せ よつ葉生協 組合員組織部 TEL 0120-07-1613>

宇都宮

マクロビオティック料理教室

よつ葉の食材を使って、動物性食品を使わない料理を作ります。あわせて、この季節の食べ方についてもお話しする予定です。講師は宇都宮南委員でもある永井恵美さんです。

日時：9月19日(木) 10:00~13:30 (受付9:45~)

会場：宇都宮市雀宮地区市民センター 調理室
(宇都宮市新富町9-4)

参加費：組合員 1400円
一般 1500円

定員：10人

託児：なし

締切日：8月30日(金)

主催：宇都宮南委員会

<持ち物>エプロン、三角巾、ふきん、台ふきん



人工芝が問題になっています

野球場やグラウンド、ゴルフ練習場、家庭、あちこちに使用されている人工芝のマイクロプラスチックが大きな問題になっています。人工芝は、ホームセンターでは「ポリエチレン」「ポリプロピレン」「ラテックス」と表示されています。人工芝は敷きっぱなしが多く、また野外使用のため、太陽・雨・風に晒され劣化します。天然芝と違い除草(芝刈り)の手間がいらず、近年、個人の家の庭にも一面敷いているのを見かけるようになりました。

何が問題となっているのでしょうか。

川や海へ流れ出て、プラスチック・マイクロプラスチックとなり、鳥や魚が食べ、クジラ・イルカ・カメなどにも被害が出ています。

ゴミの流出を調査しているグループが、2020年に全国120地点で河川や海に流出したマイクロプラスチックのうち、人工芝が25.3%で最多だったということです。

家の庭に敷きっぱなしの人工芝そのものに安全性の問題はないのでしょうか。流れ出ようが、残っていようが、人工芝は自然に戻りません。海水にも溶けず、土にもならないので、あくまで小さく小さくなって、台風・雨・風によって移動するだけです。

プラスチックは本来硬い素材ですが、添加剤を入れることによって柔らかくなります。ポリエチレンが多く、それ自体の問題は少ないと言われています。



アメリカのサッカー場や野球場で、健康被害が問題になったのが充填剤のゴムチップだと言われています。ゴムチップは古タイヤのリサイクルですが、石油由来のベンゼン他、鉛、亜鉛、カドミウムなどが検出され、それを受けて日本でもその調査がなされ、ゴムチップの製造メーカーの検査によると、安全性が確認されていると報告されています。ホームセンターで表示されていたラテックスです。

何故ゴムチップが使われているかというと、クッション材がないと硬すぎて、プレーする選手への衝撃が強すぎるということです。

人工芝は海洋へ流れ出すことによって生物間の移動によるのちと健康の被害、設置された人工芝からの飛散による健康被害、劣化した人工芝の処分の問題があります。現在、室内では紙とゴムを

組み合わせたもの、運動用の室外用でも、充填剤の飛散を減らす工夫が研究されて、実際に使われています。

あくまでも、人工芝を設置することを前提とした改良です。サッカー場では天然芝を丁寧に刈って見た目もきれいな所もあります。ここには天然芝の維持管理、人件費の負担増があると思われます。

天然芝のCO₂吸収と、人工芝を作る際のCO₂排出を考えても、今、大きい問題となっているCO₂削減に寄与する方を選びたいものです。

室内で子どもを遊ばせるのに、転倒したときのクッション材として人工芝を設置していますが、転倒のリスクをとるか人工芝の飛散による呼吸器へのリスクをとるか、設置する側の課題もありますが、利用する側の課題でもあります。

時代の流れの中で次々に開発されるもので、便利になりケガが少なくなることもあるでしょう。化学の発達に依拠していくと、人間本来の自分を守る力が失われるような気がします。

今問題となっている自動車の安全性のデータ偽装も各社の競争の限界の表れですが、本来長く使用できる車が消耗品として扱われ、宣伝され販売されています。消耗品として扱われる車に、どれほどのプラスチックが使われ、廃棄されているか。製造する側の問題もありますが、消費者にも大きい課題があります。

自由貿易により、車の関税と輸入食品(野菜・果物・米)の取引により、日本の農業が厳しい状況が作り出されている現実もあります。製造することによるCO₂の排出と吸収とのバランスが大きく崩れているのが今です。使い捨て時代が、子どもの未来に何を残せるのでしょうか。プラスチックの問題から見えてくるのは加速化する工業製品生産と、便利さと格安商品で利用している私たちにストップを求めているということではないでしょうか。

人工芝は、長く使えば使うほど、マイクロプラスチックが飛散し、土も混じって焼却にも問題が出ます。土に還らないものを放っておけば、使用した後味の悪さと産業廃棄物の山だけが残ります。

先日新聞に、栃木県北の小学校で「5ミリ以下のプラはどこ？」という環境学習で、砂の中からマイクロプラスチックを探すことを子どもたちが体験した様子が載っていました。プラスチック資源の循環に関して、リデュース(削減)・リユース(再使用)・リサイクル(再生)の3Rに、リシンク(必要か考える)・リフューズ(不要なものは断る)・リファイン(分別する)を学習したそうです。

子どもたちが、リシンク・リフューズ・リファインを身につけられるよう、私たち大人も一緒に学習し、行動していくことを学ばせていただいた事例です。

(顧問 富居)

リユースびん回収にご協力をお願いします

配送でお届けしているくらの掲載の商品のR（アールマーク）のついたビンは、よつ葉生協で回収しています。よつ葉の醤油を作っている鎌田醤油さんが石けんで洗浄し、温湯で消毒して再利用しています。

鎌田醤油さんによると、900ml 瓶の回収率は約 90%、360ml 瓶の回収率は約 50%。小さいビンの回収率がまだまだ低いです。回収率が低いと、新たにびんを購入する必要が出てきてしまいます。

回収対象の商品

よつ葉の「しょうゆ」「だしつゆ」「めんつゆ」「こだわりぼん酢」、「食菜酢」（太田酢店）（鎌田醤油さんのご協力で、昨年5月から「食菜酢」もリユース対象です）

*びんのプラスチック注ぎ口は、破損防止のため付けたままをお願いします。鎌田醤油さんが手作業で外し、回収団体に寄付されて有効に活用されています。

みんなで回収率を上げましょう！

（理事 三輪）



★やさと農業体験で『収穫&ピザづくり』に参加した組合員さんからのコメント★



- ・家庭菜園をやっているの、大変さに共感します。農家さん、暑い中ありがとうございます！
- ・こんなに暑い中、生産者さんが頑張ってくれた野菜、大切に食べたいです。
- ・かぼちゃが意外と簡単に、ぽきっと収穫できて驚きました。楽しかったです！
- ・やさとの野菜がくららに載っていると、茨城出身なのでとても嬉しいです。
- ・ジャガイモ掘りがたのしかった♪
- ・除草剤を使わないことが、本当に大変だと思いました。
- ・ピザがおいしかった♪
- ・ジャガイモやかぼちゃなどの収穫で、子どもたちが土に触れることができ、貴重な体験ができました。ありがとうございました。



回収したら 20 円を返金します！

【終売のお知らせ】

工場の老朽化により、9月4週をもって「北海道鈴丸大豆100%使用大谷石室熟成納豆」が終売となります。終売に伴い、定期登録も自動的に終了いたしますので宜しくお願い致します。

ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙をお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告 (7月4週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています (単位: 円)

放射能から子どもを守る募金 (900番)	4,800
震災孤児を支援する募金 (910番)	13,400
「有機農業と国産種子」募金 (920番)	7,600
合計	25,800

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。WEB注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。一口100円の募金になります。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮 1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/> メールアドレスが変わりました

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp



ホームページ



Facebook



Instagram

<よつ葉だより休刊のお知らせ>

お盆休みのため8月12日号・19日号のよつ葉だよりは、お休みさせていただきます。ご理解の程よろしくお願い致します。

